



20

新人 合宿

報告書

2000
3L274
第一弾

信
山
寺

信
山
寺

まくし

① 合宿雑入雑感

② 個人の反省・感想



← 編集助手

③ 係からの反省

④ 魂の口4つ

00 新人日記

5/21	5/22 (H)
3:50 離 Box 前へ起床	5:00 起床
3:55 集合	5:30 出勤
4:00頃 出発	6:20 出発
5:00 入山	8:47 明神近へのマシマシ
5:30 出発	10:20 徳永園
10:00 赤沢	11:58 積尾山荘
11:20 中沢~降3川瀬次四川	13:00 BC到着
12:30 降3川瀬次四川~小南沢四川	
15:30 ~ 400m up の沢登り	
11:55 徳永峠着。テント設置。夕食	
快晴	
今日は新人合宿一日目。お昼の飯送りの笑顔が 腹の膨しい一日。朝早い。荷物整理。腹痛。 登山は楽しい。そんな中、今日山の上。曇り。 雨。夜は初夜。うれしさが。おやすみ。 おやすみ。各位の教員の御好意に感謝。 おやすみ。	今日は厳しい雪の中を歩いた。お昼、雪割の お昼飯。明神近catererからBCまでは 落石の多道だった。BCの4の道で とて高い場所だ。2月が山に近づく 13日。とて体が限界だ。お昼5日。 何を食べても頭張る。 みなさん本当に今日おつかれさ でした。おやすみ。 (4)
	ほのか 終へさ。♡ さん おやすみ。とも 2日目のハズ ともいふ。おやすみは登せ。(2)

5/23 (X)	感想	5/24	感想
4:00 起床	<p>(高西)</p> <p>ケツがボヤク。一晩 しんどさが出た。 今朝は雪崩と青い雪が いつかは。雪中に 入ってはいけない。 雪崩の恐怖も、以下 に述べた。明日もケツが ボヤク。</p>	4:00 get up	今日は昨日に引き続き香川をまた 死なずに香川がみこさすかき
5:10 スタート		5:20 スタート	止むところがあった。
6:12 本谷橋		6:20 カラダの間	今日、アリガタのよきものをくら えきわく。たぬきの前ふかと思 た。おもしろい。
6:58 下風の最低のエリア。雪割の痕跡が 雪崩の恐怖も、以下 に述べた。明日もケツが ボヤク。		7:25 ダンゴ橋	マシマシのクリアがきれい。 (山)
9:15 雪割		7:56 ダンゴ完了	今日は、2日目の夜にいい睡眠が でき叫んだので、しんどさ
5:10 ~ 雪割		8:27 着 香川	途中まで下山した。くたした 中、早い温すかかと思 え水にして4の水は冷たい (島崎)
8:10 ~ 休		10:59	
移動 - 雪割 (ヒョウマシマシ)		5 出た	
12:08 休		1:15 BCへ	
地図で説明			今年の新人合宿は時が過ぎ のが早い。(2)

5/25 (木)

5/26 (金)

5:25 出発

感想

5:05

出発

感想

6:10 本谷橋

・300m 坂の山に登るが
12072まで79.7%乗込
たはいたが途中で降りた

6:00

橋見台

今日は足が痛か
我慢して登るが
かたまたまかた
景色がよか、7:00
最高11477...

7:10

危険なところを通過
折こにた、たつて残念

6:57

一本

7:53 洞見

有。登りペースは速
た、3しんじりた。(調)

7:55

一本

(調)

1:06 井行のロード

8:51

山頂着

山の中腹から山頂

9:30

山頂出発

12:10

10:29

山頂のロード終了地点(2255m付近)

2:15 洞見岳下へ

休憩

B.Cに到着

5/27 (土)

5/28 (土)

3:20 出発

7:00起床

5:10 一本

B.C 撤収

6:10 大曲り前

9:20 出発

6:47 一本

10:20 新村橋

2ヶ所 ダリシ

墓参り

7:59 一本

11:15 新村橋

9:00 木肩ad櫃

1:15 河童橋

10:00 橋山頂

1:30 船バ込み

11:00 肩ad小屋

2時頃 Taxiで上高地へ出発

12:30 モーニング

3時半 BOX

感想

感想

今日は一週間待ち続けた

槍ヶ岳に登下。途中思いも

5ヶ所 常に稽留したか、なんとか登

頂に成功。仲間へ感謝して

山に感謝射。(佐村)

今日は歩いてる間は超快適な

上高地で船バ込みたか、の

残念。今年泳げるとして、来年

の+シ 長い。BOXに帰ってから

か、脱力感を味わった。まだ

未熟者。わか、男になってや

みんな お疲れ様

(木)

ありがとうございました

新人合宿を振り返って

岸本 俊朗

例年になく珍しく天気にも恵まれた合宿だった。残雪が多いことは3、4月の山行や口コミなどで事前に情報を得てはいたがそれが原因で起こるトラブルについて予測を立てることも対策を練ることもしなかった。結果としては大量の残雪に苦しめられることよりも助けられることの方が多く嬉しい誤算に終わったが、山もろくろく歩いたことのない一年生のことを思えば事前にもっと検討してしかるべき内容であった。4回目、基本的には変化のない合宿スケジュールなど、慣れの意識が生んだ油断であった。「初心、忘れるべからず。」今合宿最大の反省である。

一年生はフル稼働の1週間であったが皆よく頑張っていた。大きな自信と満足を得たことと思う。山内と島崎が故障で隊を離れたのは残念でならなかったが、故障を押してでも登ろうとする二人のガッツには敬服するものがあった。ただ、1年生をみて思うことはケツを叩けばその気になるものの、エンジンのかかりが遅く、いささか自発性、平たく言えば威勢にかける、そんな印象を受けた。個人の性格的なものもあるだろうし、まだお互い知り合って間も無く、探り合いの段階かもしれないが今後は積極的に自分を出してほしい。同期でも先輩でも捕まえて精力的に酒を飲むべし！そしてあとは夏までたくさん山に登るべし！1年生は常に突撃である。

リーダーとしてまだ不慣れな所が多く悩めることの多い1週間であった。不適格な指示に眉をひそめることもなく献身的に従ってくれたリーダー一部員に心から感謝したい。

最後に今年もみんな、へー、頑張るだ、ほー♪

以上

新人合宿も振り返って 千年大木 BOND

リボ大木の役割は何だろう。そんなことを考えてた。

リボ = 職なし = プーター = 自由な人。

俺にしかできないことを俺なりのやり方でやっていきたい。

成長する一年を見るのは上級生の最高によることだ。

河童橋からのダイブは、何というか、上級生とかそういう

隔りも、まだ知り合って2ヶ月という隔りも、そういうものを全部取っ払っていった気がする。

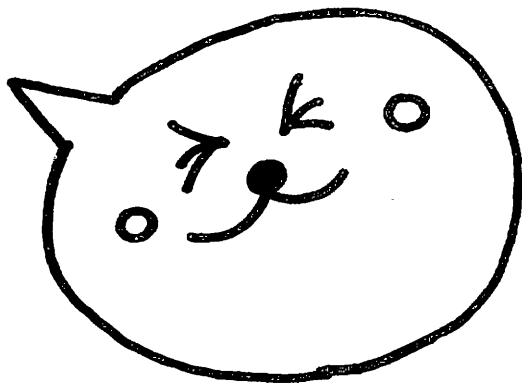
先輩後輩、ガイルパートナー、それ以前に俺達は

友達だ。人生の悩み、恋の悩み、いろんな悩みを相談

できる人間関係を築

その潤滑油になりたいものだ。

それがリボの役割。



KU - 最高! (B)

新人合宿 ミシ = 34

日高 弘次

天気に恵まれ、毎日フル活動でかなり充実した合宿だった。それだけに1年生はきつかっただろう。

初日のホッカ。続いて雪訓とびっくりするものはかりだったと思う。

8日間お疲れ。合宿も終わり、ホッとした毎日を送ってることだろう。

しかし、本当の山はこれから。新人合宿は最初の一歩にすぎない。

これから、どんどん個人山行に行き、色々な山を味わってほしい。山は下れば下るほど深みが増すものと思っている。1年には情熱を持って臨んで欲しい。続いて、俺の感想はこの合宿でそれだけの顔が見えてきた。

普段会話はないので、1年の事がよくわかる。日ごとにわかるようになってきておもしろかった。

河童橋に来た時の顔はやはりいいものばかりだった。俺達もうれしい。

下界でホッとしながら読んでると思う。が、一通り休憩が終わったら、どんどん山に行こう。

また、ボックスには毎日行くように。行けよ。

新人合宿の反省と感想

98S6024H 横山 勝上

まず2日、個人的な理由で途中下りして申し切れない。

さて、今年はあるという間の8日間だった。やはり3年目の余裕なのか。そのため今まで以上に周囲に気を配ることが可能になった(かな?)。今年はしかりとした4年生が3人だし、3年生も自分と他人に厳しくなってきたと思うし、2年生は一生懸命やってくれたので、新入生の人数が多くても気にならなかった。天候も良く毎日行動できて、実りの多い合宿であったと思う。

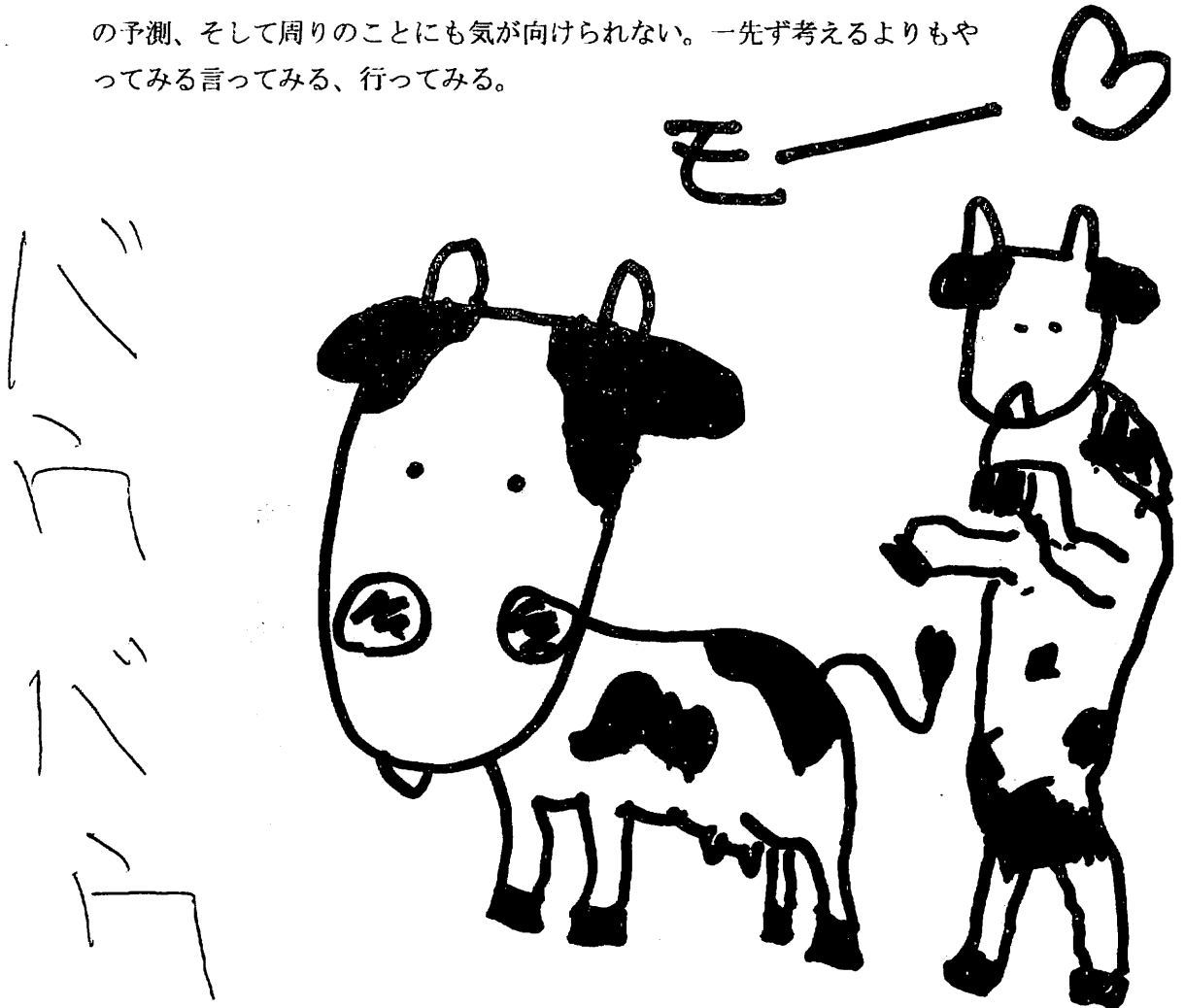
ただ気になったことが少々あった。まずは合宿前の雰囲気。これは1年生の態度を見ていけばよくわかる。しかし責任は上級生にある。どうも緊張感に欠けている気がした。まず、1年生が多く、一人一人に気を配りきれっていただけだからかもしれないが、装備にしても全然そろわないし、合宿にかけるといふ入みみいたいのも全体から伝わってこないし、どうも余裕はないはずなのに余裕をもちすぎた気がする。また、口うるさく言う上級生もいなかったように思う。1年生のもっと雰囲気はすなわち上級生のもっと雰囲気である。特に緊張感とかやる気とかそういうことにおいて。1年生がのってこない、ついてこない、白けるという前に努力不足(上級生の)。がんばってのせていきましょう。

あと、2年生は体力不足。がんばらないと、他の自分のやりたいこともできなくなる。3年生はまだ少し自分が何か言うときと遠慮がちになってしまうが、たいぶ良くなって来たと思う。4年生はこれからもしっかりおねがひします。今回慣れないサツ

新人合宿の反省感想

松寄林太郎

一年生お疲れさま。今年は、沈殿無しで雪の状態もよく充実した合宿になったと思う。顔に傷ができるまで雪訓したりとそれぞれがんばっていたと思う。これから、いろいろな個人山行に参加して合宿とは違った山も体験して力をつけて行ってほしい。2年生は、野川が辞めてしまい会としても痛手だし、個人的にも残念だ。中村は一年生に対して、合宿中しっかりと指示を出していたと思う。東稜にも行き実力もついてきたと思う。ただ、体力と係の仕事夜露死苦。もっと、上級生に聞いたり使ってくれ。人のこといろいろ言ってきたが自分が一番問題。どうも何か考え始めるとすべてマイナスに考えてしまう。自分にある程度の余裕がなければ、危険の予測、そして周りのことにも気が向けられない。一先ず考えるよりもやってみる言ってみる、行ってみる。



新人合宿の反省と感想

雪の多い新人合宿だった。一面雪に覆われた涸沢の風景は何とも形容しがたく、そんな中で日・日と変化したくましくなっていく1年生にはとても影響された。素直に吸収することで成長する部分もあるのだと改めて感じた。

1年生は山を登るという行為の楽しさ、自然環境の厳しさ、団体生活のいろんな面を各人が感じたはずである。

山における基本を学んだわけだから、今度はそれを伸ばしていくのが欲しい。ここからは1人が自分で伸ばしていくのが大切だと思う。

上級生は各人が自分の役割を意識し、合宿を少しでも円滑に進行させようとして、一丸となっていたという印象が強く残り、

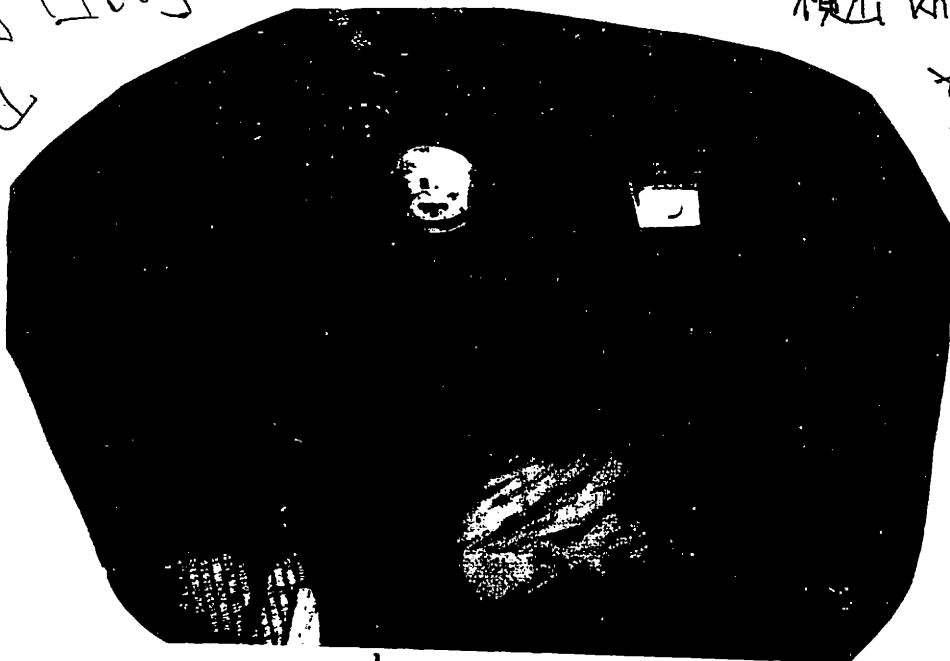
ここからの合宿もこうなりたいと思う。

反省は個人的に、体調管理の厳さが上げられる。各が終わり目が揃った部分が表れてしまい、これではいかんと思う。

もう一つは最後の夜の盛大な宴ができなかった事で、雨の日にするかというのは今後の課題である。

終わってみれば仕上りのいい合宿だった。

山
ゴッロの手



横山 knock
あきら
あきら
あきら
あきら
あきら

新人合宿の反省と感想

～反省～

- ・ Fixについての技術のなさ。
- ・ 判断・指示などにおいて上にまかせている。

～感想～

・ 今年は歩荷がなかつたはずだが、
なぜか酒やらぬかやらで何かと重い。
また遠く視点から合宿を見ることが
できた。ずいぶん早かったな。

今回は、どれだけ全体を見て行動できる
かということが課題であったわけだが、

みなさん、どうでしょうか？

一年生のみなさんは、お疲れ様です。

山岳会はどうでしたか？（—最高です。）

残る者も、去る者も、200%本気でガンバレ!!

では、みなさん、これから、一年間ヨロシウ。
山に行きましょう。

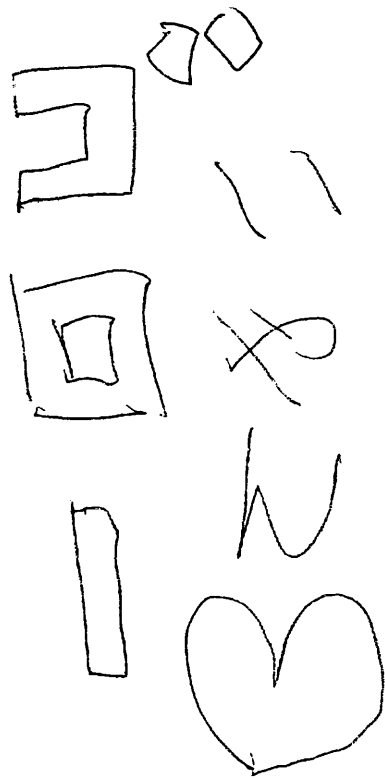
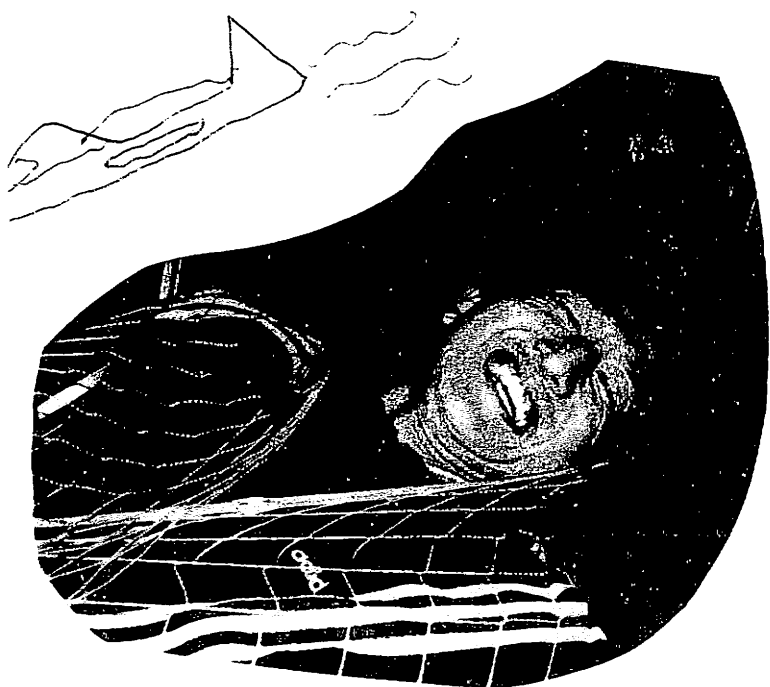
梶原 恵

新人合宿の反省と感想

野川謙介

反省 一年生として参加した昨年と違い、今年は精神的に随分と余裕のあった合宿だったと思う。また自分でいうのも何だとも思うがまだまだ体力的にも技術的にも未熟である事実を痛いほど感じた合宿でもあった。今年は晴天に恵まれ、計画フル稼働という素晴らしい結果になったが、最後の二日間は体力的に厳しく槍沢で一年生の矢野に負けてしまうという許すまじき事態を引き起こしてしまった。言い訳にならないのは百に承知の事実であるが、互いにベストコンディションでまた勝負してみたいものである。北尾根トハンに関していえばまだトハンシステムに関して理解していないところがあり、去年1年の学習努力不足が悔やまれる。また体方面においても 北尾根で1人バテて皆に迷惑をかけるなど、まだまだ向上しなければいけない面が多い。何はともあれ事故も無く下山できたのは幸せである。充実した合宿であったと思う。

感想 今までとはまるで違う、初めて引っ張られていく立場から引っ張って行く立場に立った合宿でした。二年生になって感じたことは、一年生と二年生では使うエネルギーの量が格段に違う、という事です。また人に教えることにより、教えられることが多くまだまだ自分は未熟だという事を再認識しました。一年生ははじめて山岳会の本当の活動内容を目の当たりにしたわけですが、これからは個人山行や縦走合宿などで楽しい山登りを満喫してほしい、と思っています。



係からの反省

～医療～

○ 便用品

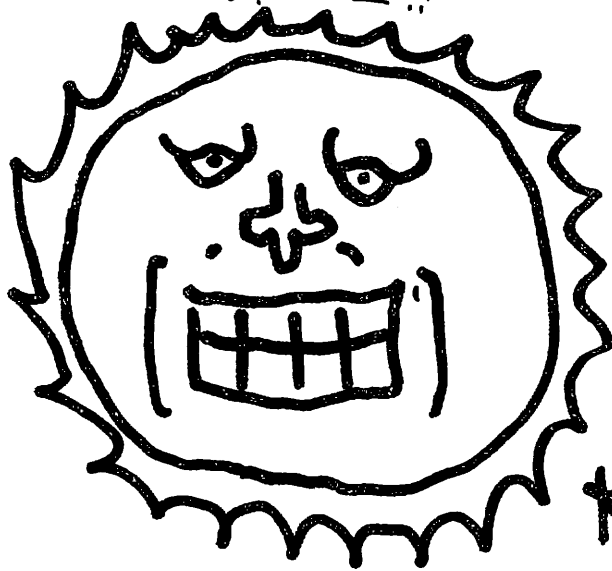
- ・ バンドエイド (ビッグサイズ)
- ・ ビタミン 済
- ・ 風邪薬
- ・ テーピング
- ・ 湿布

○ 今年 は、昨年 に比べて、病人 が 多 かった。
やはり、くっ 擦れ は、多 かった。
テーピング は 2ロール ぐら い いる。

○ 風邪薬、ビタミン剤 など は、
各自 で 用 意 する こと。

～気象～

○ 一年生 は、まだ まだ へた クソ です。
練習 ある のみ、以上 !!



太陽 -

渉外、会計の反省

松寄林太郎

食費、..... 119,773円

装備費、..... 18,872円

交通費、..... 81,500円

テンバ代、..... 8,500円

合計、..... 228,645円

合宿費、..... 221,000円 不足分、..... 7,645円

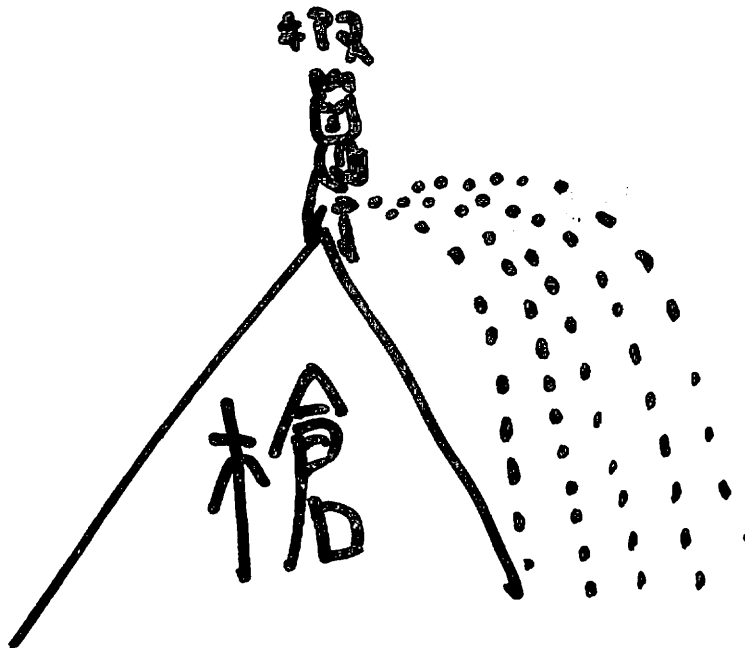
: 車の手配は、早めに松本にいる人に頼んだほうがよい。

: 事前に雪の状態などを調べておくのも渉外の仕事。隊の行動にも影響してくるので。

: 合宿費14,000円ぐらいが妥当では。

: 今年のタクシー代一台15,000円でした。

: 早め早めの会計渉外を。



新人合宿 報告書 1年 佐藤 祐樹

新人合宿は7月8日Rあたり僕。人生の中で
最も長い合宿であった。1日目は島々谷から明神
T.Rまでアフロ-子程予定が重い荷物。予想外
の雪。多量で徳志峠でテントを張った。徳志峠
はとても寒い。高菜テントが僕には寒さにはしのぎも
ない。その朝Rと肝を焚かせた。2日目。横尾Bと
また予定通りアフロ-子まで来たが、山内がヘルニア
を再発し、これ以上の合宿を断念した。しかたがない
ことだったが、とても残念に見えた。3日目、4日目は
雪が止んだ。このとき先輩方のまがしす(山内に対する
まがしす)の言え方がおかげでまがしす(山内)を知った。

5日、いよいよピークハントの日だ。滝沢岳の大
躰はたしかにすおいたが、山頂付近の足場
の悪さのため山頂まで行けなかった。かこの上
を苦しめが残った。そのために、翌の日の日
蝶ヶ岳の躰は偉を懸った。前日は明日を
予備に。雄大な山々、後ろには霧をかけた
長幻想を思わせる松林。人がとれぬほどの
静けさを感じた。7日、直朝、
どうも来たがどうも未知への期待と不安で目が
覚めた。不安は胸の中。桂流の山頂まで。夕
である。とても意地悪な地形だ。最初
の山頂は夕陽場所。その先代も意地悪

ない人物だ、右にちがいない。ロウジがあると思われ
た場所だ、とあれだ。さらに遠くは霧が上にある。
つらかった。本当につらかった。槍の穂先には雪が
かかっていた。寒さと恐怖。必死でそれを振り
払い山頂に着いたとき、何と云うか、山から洗
礼を受けたような不思議な気分になった。今で
は夢を見ていたように思われる。8日目、下山の日、
様々な思いを胸に山を降り、そして床に入った。

山田和輝

5/20 荷物 個装+団装で35kg。1日と明日冒險だ」とワクワクしてはたけの理窟た
泣きで逃げたかった。つい昨日は特攻でしかない特攻隊長として：敷設し
た分は気持ちは最悪で夜はほとんど目も開けなかった。5/21 3:00 学校着。矢野君が外
で目も開いてびっくりした。とりまいお話を、山で迷いをたつ横ヶ岳にたおねる。と
先輩たちが車を出して来て、荷物をつまみつまみ。いざ出発。車によるケロケロでいた。
5:33 14パーテ、ーとしてスタート。おきろくにたりながいつづいてくらくらいきなり泣い
てはった。荷物がつかって、一本のたびにふたあけた。早くさっさとけりしてよって何度か車直
った。足に豆もきいてきた。第4日目くらいでニッポンさんがついのほみんはいらしてま
うのが今でも心に残ってる。でもつい泣いてはた。左の足、くらくらしたと足は自分
が。第4日目で岸本さんがダン箱を壊して来た。今の僕では、35kgの鉄板の
は超えおれなかった。おきろくにたりながいつづいてくらくらいきなり泣いてはた。山
小屋途中でニッポンさんの足が止まった日、ついのほみんはいらしてはたの自分に
してみた。でもニッポンさんは、ともしつづいて、糸色体に先輩は車を運ぶために本
当におこが
った。何度も逃げたかったけど、おきろくにたりながいつづいてくらくらいきなり泣いて
たからおかしな。泣きはたけの根はたけの根。おきろくにたりながいつづいてくらくら
小屋につき、キャンプだった。12時間おきろくにたりながいつづいてくらくらいき
た。流木屋2つを見た。色のおきろくにたりながいつづいてくらくらいきなり泣いて
僕もライオンにた。朝起きてたいくつおきろくにたりながいつづいてくらくらいき
撃した。エッケは、でもついで4分おきろくにたりながいつづいてくらくらいき
怖かった。でも下りていまは、後は平たんな道。右側が高地の所でニッポンさんに
て左に行けば文明と女とか言っていた。本当に木は少なかった。おきろくにたり
しかた。ダン箱よさずはた。たけの根はたけの根。おきろくにたりながいつづいてくらくら
ダン箱はすこした。ピッケルスタッフは、気合いと根まで満員は満員。5/24
2日雪割。今日のかかりたけの根は、全員全量だった。エッケとまじり合って、最後
僕が飛び込んで、ピッケルで勝ったみたい。おきろくにたりながいつづいてくらくら
僕も楽しかった。今日は

新人合宿を終えて

1年 鳥崎晋亮

この合宿から帰るまで思っていた事は、充実した8日間
が本当に楽しかった。特に8日間をかけた技術的にも
精神的にも成長した気がする。

まず初日。32kgという経験したことのない重荷
を担いで長時間歩いたのは初めての事なので正直
きつかった。しかし、この合宿に来る前は「この合宿
中に誰か脱落するとは思ってなかった」と言われていた
から心配はなかった。2日目は8kmの距離を歩いた後
は、足がくじけてしまった。3日目以降、みんな
よく歩けるようになった。3日目を
雪山訓練。涸沢まで歩いた事で、ケルストロフ
と基本的な足の歩き方を教わった。4日目は
びっぴり雪山訓練。なかなか足がくじけて歩きの痛み
がピークになり、涸沢に行き途中で断念。足が
くじけて、5日目は8kmの距離を歩いたのは蝶々
系にやっかした。頂上まで歩いたのは、たけな
天気も、景色もとても良かった。7日目は
雪の無い雪山訓練。足が痛かったので
で雪山訓練。足が痛く、ケルストロフをした。
8日目は葛巻りに行き、上高地の児童様から
船で送ってもらった。こうして1年が過ぎた。苦しかった
場面も多かったが、今自分にはプラスになっている
と思う。これから、いろいろな個人研修に参加
して色々な苦しみ、感動を味わってみたいと思います。

～新人合宿が終わって～

新人合宿が終わった。終わったのである。

終えたとは寝床にいても二の口から出てきえないと思つ。

なぜなら 終えれるものであれば遅くとも一日目の正午には
僕の脳が出した "登山終了命令" が体中に伝わった

はずだからである。しかし二日目の移動力が前日よりも比較

的減少したものの様に見える。早々に "楽しい登山" の未来を

想像する。知らぬが仙の馬鹿者である。三日目の午前、国沢

の中膳で、僕の脳は一瞬にして判断能力を失った。

僕の体の指揮系統の "司令部" は指揮権を強奪され去った。

もはや僕の脳は "足れん" の指令に "オハヨー" と喚び、自ら

の体にはひたすら厳しいだけの "中間管理職" と化した。これは結局

こんなものだ! と知った僕の脳はその後非常に素直になった

(バツコ)。ウニコが止まるまで寝床はセコく。満腹にも

苦しむ生活に疑問を感じなくなつていった。そしてそのまま

三日間は過ぎ去り、今ついでに新人合宿は終わったのである。

反省→①行動力の準備が皆人なより遅かった。②いっ

したとき、③他人な... ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

今回の新人合宿は、自分がいかに甘いかを思い知らされた合宿となった。体力はない、ピッケルストップ・シリセードグリセードも下手、自分のことで精一杯で周りを省みる余裕がない等、自分の弱さをまざまざと見せ付けられることになった。

雪訓のときや涸沢走りのときも、みんながどんどん先へ進んでいくのに、一人取り残され、何度やってもうまくいかず、こんなもので、「高校で山をやっていた」とか言っていたのかと思うとただただ情けなく、恥ずかしく、悔しかった。「自分はやっぱり山には向いていないのだろうか」などと考えてしまい、自分が何のために山へきたのか、見失ってしまっていた。五日目には風邪まで引いてしまい、モチベーションが低下して、精神的にはこのときが一番つらかった。

この日の夕方、上級生に、自分の振る舞いを注意され、自分に甘えていると指摘されたとき、本当にそのとおりだと思った。自分が弱いという現実から無意識のうちに目をそらし、「向いていないかもしれない」など、無理に自分を納得させようとして、結局は弱いことを認めたくない自分に甘えているだけだった。そして、それがすべての行動で自分に甘えることになり、結果、みなに迷惑をかけることになった。この点は今後私が特に気をつけなければならないことである。

しかし、このときビシッと書いてもらえたことがいい刺激になり、翌日から体調が回復したこともあって、残りは充実した登山ができた。自分への甘えがなくなったとはいえないが、自分の弱点がわかったことで、自分に何が必要か見えてきた気がする。これからの山行に、この合宿で得たものを生かしていけるように、今後もがんばりたいと思う。

最後になりましたが、未熟な私を助けてくれたみんなに言いたいと思います。本当にありがとうございます、そして、お疲れ様でした。来年は新人合宿で笑っていられますように。

二千年六月、新人合宿を終えた林勝也



新人倉倉

山内樹

今、私は倉倉中といふ一級有った活火にガックル。靴、
軍手、軍帽、ヘルメット、スパッツ、行軍靴、下駄。友人は
わらわらと笑つて、この女を喜ぶて。

登山と出合つて今日。私は桶水の信州木造に合流し、
霧の山頂に上つた。長野に上つて、山頂に上つた。
公園に上つた。「山頂に上つた。山頂に上つた。」

「山頂に上つた。山頂に上つた。」と叫ぶ。平野に上つて
行つて、山頂に上つた。「山頂に上つた。山頂に上つた。」
と叫ぶ。山頂に上つた。「山頂に上つた。山頂に上つた。」
と叫ぶ。山頂に上つた。

山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。

山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。

山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。
山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。山頂に上つた。

エッセン系から

野川謙介

反省

- レシヨンの内容が悪かった
- 食事の量. 特に米が少なかった
- 最後の夕食の準備は時間がかかる
- 食料を動物に食べられすぎた

今後への対策

- ゼリーとガムは入れすぎない
- 米は^{全体の}半分を1人2合、残りを1人1.5合で計算するとよい (例) 全体20人とすると
 $10人 \times 2合 = 20合$
 $10人 \times 1.5合 = 15合$
計 35合

- 最後の夕食の準備は早め早めに
- 買い物カゴを持っていきそんで食料をガードする。

装備 反省・感想 中村圭一

あい、すいやせん。

準備段階において、不足が多数。また、忘れものもあり、装備としては最底の合宿でした。

装備の不尾不足。

ダニロップ天のポールを忘れた。

けしの本数を打ちがえた。(打ちがえた)

FIXロープの量が打ちがえた。(積は雪の量が解いた時、200m
セト40~50枚必要)

消費

MP 60本、白ガス 6.0L ロ-77 4本

来年に向けて ~ ~ ~ ~ ~

準備は前々からねこと。

腰もセト、FIXロープは解いた。

装備担当者は孤独だ……

初め、今回装備担当になった分だけ、去年の反省、
が全くいかされてなく、全く学習のない装備でした。
こんな事ではいつまでたっても進歩はなく、全くMPX。
来年、装備をね人は、よく考えよう。

自分も、夏に向けて、去年の反省を生かしたい、

新人右宿.の反省と感想 74K2050D
中村圭一

反省. 山岳会に入.る22回目の新人合宿にまたおれたが.
2年生となり. 自覚はあ.たが. 自信がも.てな.か.た.
これは. またまた1年は見.ま.れ.て.い.な.か.た.通.や.
経験不足からくる. F.以降とし.て.うまく働.け.な.か.た.
こと.から.くる. 自.分.の.否.な.る.部.分.は.自.分.で.お.か.し.め.て.い.
る.た.が. これを口.や.字.で.表.す.前.に.行.動.に.移.さ.な.け.
れば.な.ら.ない.
夏.合.宿. 冬.合.宿. と. 次.な.る.合.宿.に.目.を.向.け.て.行.き.た.い.

感想.

久しぶ.りに.山.あ.一.早.く.山.に.行.き.た.い.と.い.う
感.覚.が.お.も.が.え.た. 春.山.の.そ.う.せ.つ.な.る.次.に.
た.え. 何.れ.も.千.ハ.ー.ユ.ニ.的.に.も.働.か.た.が.
た.ん.と.今.年.は.何.ん.か.上.も.働.け.た.と.い.う. 自.分.自.身.
も.何.れ.も.千.ハ.ー.ユ.ニ.が.高.か.た. 今.回.は.去.年.と.ち.が.い.
お.こ.し.週.間.が.早.く.感.じ.た. 明.分.は.た.し.た.し.た.し.た.
ん.た.と.思.う. これに.毎.日.は.れ.は.れ.は.れ.
最.終.日.夜.雨.が.降.た.と.も.聞.く.が.憂.ま.い.は.は.れ.
定.説.は.く.わ.れ.な.か.た.
これ.は.ド.ロ.ー.た.ん.の.屏.風.東.嶽.の.登.れ.
お.お.お.お.と.い.う.山.は.と.あ.る.が.お.こ.し.快.速.で.
い.い.経験.に.な.た.と.思.う.
全.体.を.通.じ.て.た.し.た.は.た.し.た.ハ.ー.ハ.ー.
と.あ.る.と.こ.こ. 以上.





雑人雑感

NOTE BOOK

魂の叫び

編

CF-R4B 170 細野 6mm
6mmメモリ入り



古紙・パルプ配合率70%中性紙使用

初日のアプローチで出陣の時にはまだ、野山訓練の
やりかたが一回一回に幾かに本陣にいくと。自らの命を賭して
命を、危険箇所で大いなる注意をはらうべきなど
この命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
頭でわかっているが体がつかないか、何事もわか
けし、日が経つにつれて、先輩の注意も少なくなり、山系での
任組がながれ、それと、危険箇所での先輩の
負配りも、下山するまでの先輩の負配りにも、感謝には、
それなりの時は、時には、先輩達に、謝辞（？）
以下に、この命を賭しては、果敢に本陣へのアプローチか？
その家系を、命を賭しては、それなりの150日以上の登山活
動に、命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、

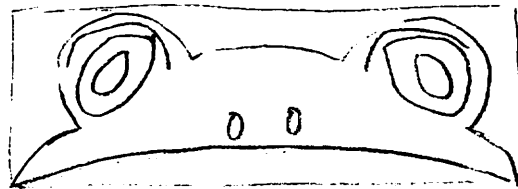
先輩、お前も、命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
それなりの命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
それなりの命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
それなりの命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
それなりの命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
それなりの命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
それなりの命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
それなりの命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、

命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、
命を賭しては、命を賭しては、命を賭しては、

魂の叫び

1年 島崎晋亮

この合宿から帰って正直、山岳部をやめようか迷った。山に登る喜びばかり見えて、楽しさが全く感じられなかつたから。なぜ先輩たちは山に登るのたろ。合宿中、そのことをずっと考えていた。自分は自然が好きだし、無論、山も好きだ。しかし登山は好きになれない。合宿から帰ってきてもそのことはばかり考えて、もうやめようと思つた。そしてある先輩に相談してわかつた。自分はまた「食わず嫌ひ」しているとおかた。また山岳部に入つて経験していないことがたぶんある。と勧められた。それからまた練習をやらせられ、そして山岳部でできることをできるまで経験してこうと思つた。それが、本当に自分に合っているかどうかを判断すればいいと考えるようになった。そういうことで「楽しさ」を探しなから個人山行に参加してはたかと思つた。まあ、どうぞよろしく。



徳沢園のカエル

山田 和幸

8日間、アッという間にすぎた。色々な人面というものに出会えた。色々なカリッが
印象にある。女として必死に生き、身に入らんわんたよ。それ以外な人さ
アッーだ。モチベーションを高く。素直な事は強い事！。山は面白い
と根至。すっごくインパクトがあった。たしと学びをり考えた。本当に考えた。
いかに自分が弱いかわかった。自然の恐怖。文明への感謝。すっごく環
境問題の精神の勉強になった。僕は自分自身に厚い絆を身につけた。ピン
チな時神様助けしてくれ。今の自分にならなくてよかった。すっごく思えるようになった
性格が少し好戦的に変わったのかもしれない。金で買えない。死ぬ。そのア
ッーはすっごくためになった。冒険はアッーと。一番遠く行った者ほど一番近
くに帰ってくる。たから僕は山は怖くないと思えた。山という目標のもと
に集った仲間が本当に出会えてよかった。いっしょにくるしみ。アッー。散々
だった。でも楽しかった。とにた。楽しかった。たくさん挫折して。たくさんアッー
とにた。アッー。とにた。考えた。いっしょにアッー。いっしょにアッー。
アッー。本当に楽しかった。僕は夢が大きくなった。今更には海林さんという人もアッー。
きて。その人がたすきわす山。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。
僕は僕だけの戦い。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。
アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。
アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。
アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。
アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。
アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。
アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。アッー。

新人合宿 魂の叫び 山佐藤 祐樹

1週間、様々な感情が大爆発した。

期待、不安、苦しさ、痛み、楽しさ、冷たさ、暑さ、厳しさ、安らかさ、あせり、恐怖、おいしさ、まずさ、かゆさ、くやしさ、またなさ、幸福感、美しさ、すかした達成感、不快感、畏怖感、残念さ、無念さ、快感、そろり味さ、恋しさ、たろさ、めんどうくささ、怒り、喜び、そして欲求不満、言葉のぬが、人の持っているすべての感情を出して、仲間へ感謝、そして山へ感謝

～山岳靈魂の作文～

山は 黙つてゐる。

心もとく 寝られぬぞ

頭上を 震えられぬぞ

何処を見ているのかも

この僕は

あつたつてあつた

ただ

ボクの方。

中腹を 走りぬるぞ

それども 山は黙つてゐる。

分からなかった。

できなかった。

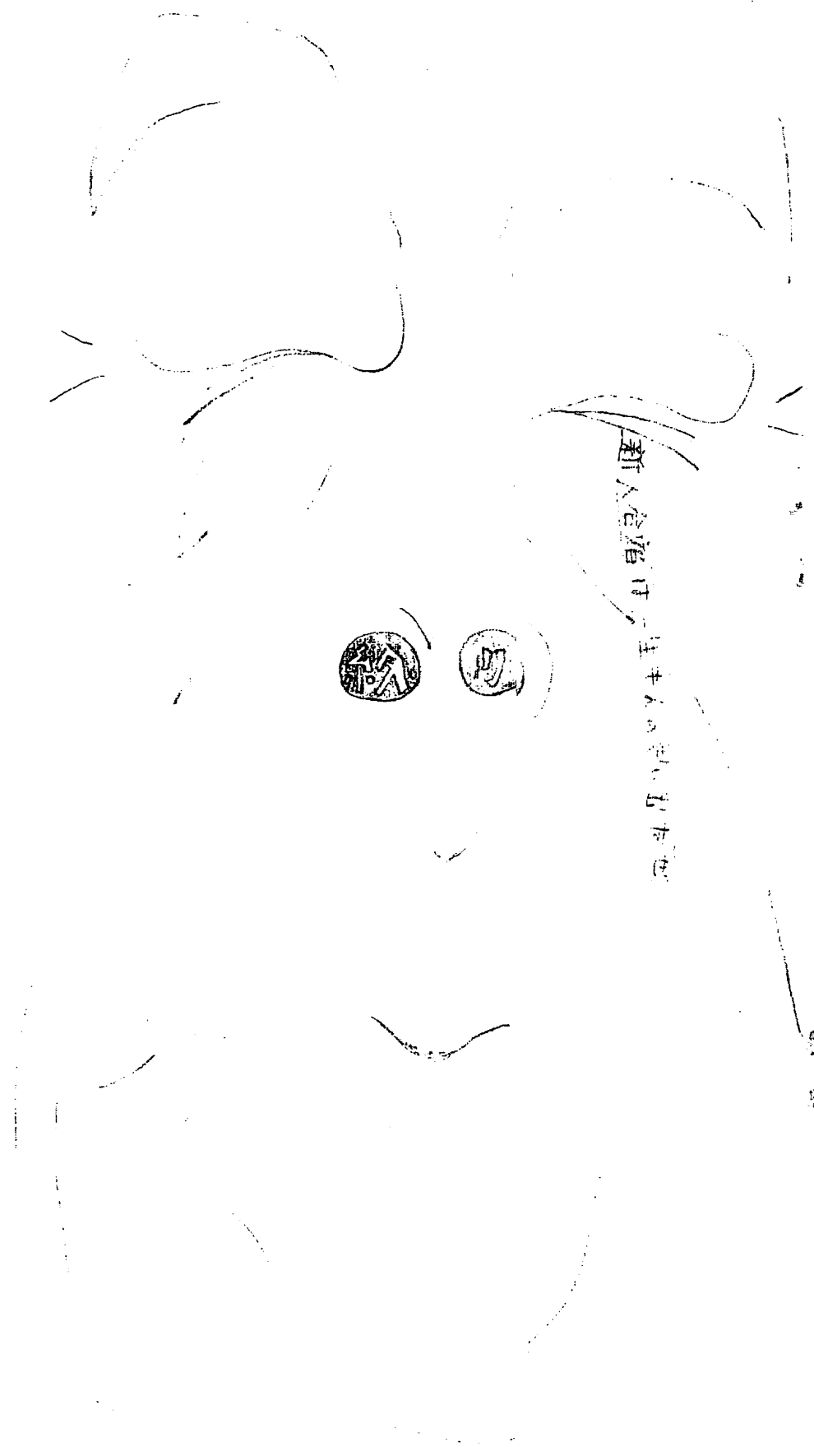
不機嫌なものを、

矢野 航

編集後記

あの

すいせいの♡



新人出版社
上海人民印刷厂